



## 信じる

校長 富田 操

本日4月7日、新しい仲間、新入生41名を迎え、全校児童229名で喜びと希望に満ちた令和3年度をスタートします。

今年度も、子どもたちの一層の成長を目指し、教職員一丸となって千秀小学校の教育に取り組んでまいります。どうぞよろしく願いいたします。

昨年度、修了式で「3月と4月はリセットの時期です。」という話をしました。そして「人はいつでも、何度でも新しい自分になれる」と子どもたちに伝えました。4月は、学校にとって大きな節目の時期であり、子どもたちはもちろん、私たち教職員も新しい自分になっていこうと決意する時です。

この時を大切に、子どもたちが新しい自分になって良くなっていこうとする気持ちをしっかりと見守り、受け止めていきたいと思えます。子どもたちを見ていると、子どもたちの良くなっていこうとする気持ちにいつも驚かされます。そして、人は生まれながらにして「良くなっていこうとする存在なのだ」ということを教えられます。

学校では、様々なことが起き、決してうまくいくことばかりが続くわけではありません。しかし、その中で子どもが良くなっていこうとする姿、そして良くなっていこうとする力から、子どもは信頼に値する存在だということを感じます。

子どもは、もちろん失敗もします、間違いもします。しかし、その一つひとつに丁寧に向かい合えば、必ず子どもは、良くなっていく。そのことは、私の拙い教師経験の中でも、絶対と言い切れるほど確信していることの一つです。ただ、その信頼は「様々なことを乗り越えて、そこにいつかは必ずたどり着く」という意味での信頼です。

そこに至るために、子どものことを正しく理解し、正しく寄り添って支えなければ時として長い時間を要することがあるのも事実です。

やみくもに「子どもを信じる」のではなく、間違いや失敗は必ずあるものとして、間違いや失敗を「悪いこと」とだけ捉えず、冷静に見つめ、見守り、時にはあえて手を出さずに待つということも必要だと考えます。私たち教職員が子どもを待つことができるのは、子どもたちが、間違いや失敗を乗り越える姿を何度も目にしたことがあるからです。それが「できれば、こうあってほしい」という希望や願いではなく、確実に起きる「事実」であることを知っているからです。

保護者の方の「子どもの全てを受け入れる愛情」と教職員の「子どもを指導し、成長させ社会で生きていくことができるようになることを目指した愛情」とは少し違う種類の愛情です。その二つが違うからこそ、子どもにとって学校は意味がある場所になり得ますし、学校と保護者の皆様が一緒に力を合わせたとき、子どもが育つ環境として最高の状況を作り出すことができます。そして、そこに地域の方の愛情が加わるとき子どもは、のびのびと自分の力を発揮していきます。子どもの良くなろうとする力を信じ、教職員一同、全力で支えていきます。今年度も、ご支援よろしく願いいたします。